阿蘇くじゅう国立公園

火山群

阿蘇くじゅう国立公園では270,000年前から火山活動が起こっています。90,000年以降火山活動によって現在の地形が形成されました。東西18km、南北25kmにわたる阿蘇カルデラは数千年に及ぶ4回のそれぞれ別々の噴火によって形成されました。

第1期は、120,000年から270,000年前の間に起こった3回の火山活動からなり、火砕岩の大規模な流出が活動する火口の周りに台地を築き上げました。約90,000年前に起こった別の噴火が火砕岩台地を拡大しました。この噴火後、土砂崩れや山体の陥没、クレーターの崩壊によりカルデラが形成されました。この後火口付近は莫大な量の雨水をため、長い年月の間大きな湖でした。何千年も前のある時地震が起き、この水が流出した結果、現在のカルデラの形が出来上がりました。

くじゅう連山も火山で形成されており、約15万年前に活動を開始した活火山です。最近5000年の間は、1000年程度の感覚で噴火が発生しています。大規模なマグマ噴火としては、約1700年前に生じた黒岳の噴火が最後です。近年では、1995年10月11日に、硫黄山（いおうざん）で噴火が発生し、火口から100mの範囲にこぶし大の噴石が飛びました。現在でも、硫黄山はガスを噴出しています。

2つの活火山である阿蘇連山の１つ阿蘇山とくじゅう連山の１つ硫黄岳を擁するこの一帯は未だに噴火活動に見舞われており、最近では(2010年以降３回)ほとんどが火山灰や岩の小規模な噴火が何回か起こっています。

噴火の際には火口の周囲から避難しなければなりませんが、この火山環境からは、豊富な水資源や温泉、夏の季節の涼しい気候などの多くの恩恵を受けることができます。